

ポリオはワクチンで予防できる病気です



ポリオはウイルスによって起こる、非常に感染力の強い疾患です。症状として麻痺が現れ、その麻痺が一生残ってしまうことや、呼吸困難で死亡することもあります。

日本でポリオの流行がピークに達したのは1960年のことです。5千人をこえる患者さんがみられましたが、ポリオワクチンを導入したことで、流行はおさまり、1980年以降はポリオの野生株による患者さんは報告されていません。

一方、海外ではポリオの流行がまだ見られる地域もあり、2011年には中国でもポリオの流行が報告されました。日本にも海外からポリオウイルスが持ち込まれる可能性は十分考えられます。ポリオの確実な治療方法はなく、ワクチンで予防することが大切です。

ポリオワクチンは不活化ワクチンです



平成24年9月からポリオワクチンは、「生ポリオワクチン」から、「不活化ポリオワクチン」に変わりました。「不活化ポリオワクチン」は、ポリオウイルスの病原性をなくし、免疫を作るのに必要な成分を取り出して作ったものです。従来の「生ポリオワクチン」は、毒性を弱めたポリオウイルスが含まれるため、接種を受けた人の接触者に、ポリオにかかったような麻痺が生じることがありましたが、不活化ワクチンでは、このような心配はありません。

不活化ポリオワクチンは、4回の接種が必要です



不活化ポリオワクチンは、4回の接種が必要です。免疫を十分に高め、長期に維持するためには、決められた回数を確実に接種することが重要です。なお、ポリオの予防接種には、単独の不活化ポリオワクチンによる接種と、不活化ポリオにジフテリア・百日咳・破傷風のワクチンを合わせた「4種混合ワクチン」による接種があります。

協力医療機関で通年接種できます



不活化ポリオワクチンは、横浜市内の個別予防接種協力医療機関で、年間を通じて接種することができます。接種券（予診票）は、協力医療機関にあります。接種スケジュールについては、協力医療機関にご相談ください。

※ポリオの予防接種については、「横浜市保健所 予防接種について」

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/hokenjo/genre/kansensyo/vaccination.html>
をご覧ください。

〔参考〕

厚生労働省，“ポリオワクチン”，<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/polio/>

厚生労働省検疫所，“ポリオ（急性灰白髄炎）”，<http://www.forth.go.jp/useful/infectious/name/name09.html>

横浜市衛生研究所，“ポリオ（小児麻痺・急性灰白髄炎）について”

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/disease/polio1.html>

作成：横浜市衛生研究所感染症・疫学情報課